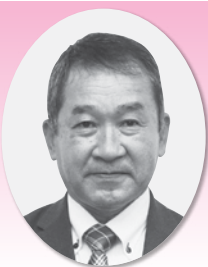


一般質問



通過車両の生活道路への 流入対策について



会派 きずな ● 奥村 幹郎 議員

国道1号バイパスについて(4車線化)

問 市の単独要望をはじめ、関係市で構成する各期成同盟会を通じて、この8月に滋賀県・県警本部・近畿地方整備局・国交省や財務省に対して要望活動を行い、様々な角度からその必要性を訴えてきたところですが、令和7年秋に開通予定の先線である山手幹線(栗東・草津)からの交通量が更に増えることが想定される中で、現在においても工事着手の時期について、明確に示されておりませんが、引き続き強く要望していききたいです。

県道4号交差点について(三雲西交差点)

答 三雲西交差点の改良事業につきましては、現在甲賀土木事務所において用地測量関係の委託業務を発注されて

おり、右折レーンの滞留長を精査しているとの報告を受けています。

交通規制について

答 朝夕の慢性的な渋滞に伴う生活道路(旧東海道)への車両流入を食い止めるため規制がなされておりますが、通り抜け車両が後を絶たない状況にあります。旧東海道の市道大溝線交差点につきましては、交差点明示と見通しの確保が必要であることから、本市で強調表示を実施し注意喚起を行ったところであります。また市・警察・地元ほか関係機関と現地確認を行い協議の結果4方向一旦停止の交通規制の決定が下され、現在は、甲賀警察署による路面への「止まれ」表示と「止まれ」標識設置を残すのみとなっております。



自然災害について



会派 きずな ● 望月 卓 議員

想定浸水深表示数字の減少対策について

答 雨量の増加により、河川から水が溢れたり、堤防決壊して、側溝排水が機能以上に溢れ出たりして、その地点にどれだけ水が溜まるかの指標です。減少方法は、現地での土地の嵩上げか、浚渫工事による川底を下げる工事等があります。現在、野洲川を管理する県では、防災・減災、国土強靱化5カ年加速化計画によって、土手の強靱化等、100年確率に向けての整備予定を進めています。

河川管理区域内の倒木被害リスクについて

答 多くの樹木は、植樹後、数十年経過し、「老木」となります。これら樹木の管理者は植樹した人、団体ですが、

河川管理者が植樹した樹木は殆どなく、樹木の管理者の特定は、困難な作業です。

現在、地域の皆様や近隣住民皆様の協力により、維持管理がされている状況で、地域の皆様からの情報提供を頂きながら対応・処理を実施しているところです。

地震被害想定の見直しについて

答 今後は、被災地への支援についても個々の災害対応業務だけでなく、災害対応の方針決定や他の自治体、関係機関との連絡調整を行う災害対策本部運営等の分野につきましても積極的に職員を派遣することで、指揮命令・対応判断等のノウハウを蓄積してまいりたいと考えております。